

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

学校施設 創立～旧校舎時代

学園は町田街道南側の木造校舎から始まった。当初の木造校舎は、工員宿舎から転用された木造建築であった。1階が教室・2階が寄宿舎として使用された。寮生活を送る者には学・住一体の環境であった。教職員にも宿舎に住む者があり、職・住一体の生活を送っていた。創立10周年記念として、生徒・教職員の働きで完成されたプールは、現在残っていない。町田街道北側に校地を取得し、1950年代後半から鉄筋コンクリート造りの校舎が建てられていった。1966年に大学が開設されると、それまでの校舎は大学施設への転用が進んだ。1970年前後に大志館、立志館、賢良館が竣工するとともに中学・高校は学園内の西側に位置することになった。校舎の前面に広大なグラウンドを有する理想的な教育環境であった。学生寮は先に男子の募集を停止した。「薔薇寮」(女子寮)は建て替えをへて1990年代まで継続していた。



■ 学園の玄関 (1952年)
看板には中学校、高等学校、短期大学、洋裁専修科とある。



■ 運動場から見た校舎 (1950年代)
工員宿舎から改装された校舎が5棟連なっていた。



■ プール開きの様子 (1956年10月1日)
創立10周年記念として25メートルのプールが完成した。生徒、教職員が掘削した。



■ 明々館1期工事竣工 (1958年3月)
学園初めてのコンクリート校舎。高校の一部が移転した。

■ 春の旧チャペル正面
1959年3月「荊冠堂」チャペルが完成した。



■ 旧チャペルでの礼拝 (1960年頃)
1,000名近い人数を収容可能であった。



■ 薔薇寮完成 (1971年5月)
鉄筋コンクリートの高校女子寮。1990年代に改築された。

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

学校施設 各年代の校舎

高校は創設から初めの10年間は、一学年100名に満たない規模であった。1950年代半ばからは通学圏の都市化の進展、高校進学率の上昇などの影響を受け生徒数が増加した。1960年代半ばからは一学年400名以上の生徒を受け入れ、学校規模は一気に拡大した。大学の開設もあり高校独自の新校舎が必要となった。1960年代後半には鉄筋コンクリート造りの大志館が竣工した。数多くの普通教室を備えた校舎は、急増期の生徒受け入れに大きな役割を果たした。その後、理科教室・芸術科教室を備えた化楽館、図書館、LL教室を備えた念書用功館が竣工し、特別教室も充実した。1992年に新大志館が竣工した。5階建て校舎には体育館も一体化しており、空調設備も備わり教育環境は更に向上した。情報化の進展に伴い、情報通信機器の使用に適した環境が整えられた。2021年には復活の丘斜面を開発し新ロードサイドグラウンドが完成した。



■ 空撮写真 (1970年頃)

写真左側の茶色い屋根の2階建てが中学旧立志館。隣接する3階建てが高校旧大志館。



■ 高校生の登校風景 (1970年代後半)

鉄筋コンクリート3階建て校舎(旧大志館)には多くの教室を備えていた。



■ 高校管理棟竣工 (1978年3月)

校長室、職員室、事務室を備えていた。



■ 化楽館竣工 (1978年3月)

理科実験室、芸術(音楽・美術・書道)教室を備える高校特別教室。



■ 念書用功館竣工 (1982年11月)

図書館、LL教室、研究室等を備える中学・高校学習センター。



■ 高校新大志館竣工 (1992年3月)

改修を経て現在も高校の中核校舎として使用している。



■ 新ロードサイドグラウンド完成 (2021年10月)

200メートルトラックを中心に多目的な利用に対応する総合グラウンド。



■ 空撮写真 (2017年9月10日)

築年代の異なる建物を連結して使用している。写真左上が中高校舎。

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

校内スナップ 登下校風景

高校時代は、生涯続く友人関係ができる時期である。高校時代を振り返ると誰もがこのように感じるのではないだろうか。教室での出会い、クラブ活動での交わり、登下校時、休み時間や放課後の教室での会話の中から友情が生まれる。お昼休みの教室では、昼食をとりながらの話が弾む。旧 大志館前の池の周りは語らいの場であった。新 大志館建設後は、放課後の「高食」（高校食堂）では自習をする者、友人同士で話し込む者と下校までの時間を思い思いに過ごしている。

通学に公共交通機関を利用する者は多い。町田街道を往来する路線バスを利用する者、また横浜線の利用者は淵野辺駅からのアクセスが課題である。1960年頃にはスクールバスが導入されて通学条件は改善された。今日では中学高校生の90%は通学にスクールバスを利用している。



■旧 大志館の前で（1970年頃）
かつては旧 大志館の前に池があり生徒の散策の場であった。



■通学風景（1960年頃）
箭幹八幡神社の境内にて。



■食堂での昼食（1965年頃）
授業の合間の昼食はいつの時代でも楽しいひとときである。



■高校管理棟の事務室の前で（1980年頃）
各自思い思いの過ごし方をしている。放課後の風景であろう。



■朝の登校の様子（1980年代）
スクールバスを降りて、メイングラウンドの脇を通り校舎へ。



■廊下の情景（1984 - 86年）
生徒用ロッカーに荷物を出し入れ。



■放課後の高校食堂（2010年頃）
放課後の「高食」は、生徒の自由な空間。

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

授業の取り組み

伝統的な教室での授業は、教師は黒板にチョークで板書しながら講義を進め、生徒はテキストを見ながらノートをとるスタイルである。50名、40名を一斉に教えるには効率のよい方法である。授業方法の革新は、語学教育にLL機器を使用するところから始まった。やがて教室にテレビが備えられ、映像資料を使用するようになった。21世紀に入る頃、LL教室はコンピュータ教室に衣替えし、インターネットに接続したPCを用いた授業が始まった。2010年代には、すべての教室にプロジェクター型の電子黒板が備えられ、教材、テキストを画像で提示するようになった。次いでWi-Fi環境が整備され、生徒はタブレットPCを使用して自分で情報を得ながら授業に参加することとなった。今後、学校での授業スタイルは、双方向型へと転換していくものとみられる。



■ 授業風景 (2010年代)
電子黒板が設置された教室での理科の授業。



■ 木造校舎の授業 (昭和20年代)
宿舎の和室を改造したもので、柱がむき出しになっていた。



■ 高校の授業風景 (1955年頃)
二人用の机を使用して授業を受ける。開校時から男女は共学。



■ 高校授業 (1970年代後半)
新装なった化学館理科室にて理科実験授業の一コマ。



■ LL教室での英語授業 (1980年代)
念書用功館にはLL教室が整備され語学教育の向上に寄与した。



■ 図書館閲覧室の様子 (1980年代)
念書用功館には中学・高校用の図書館が整備された。



■ 授業風景 (1980年代)
教員が授業中に机間巡視し学習状況を確認。

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

学校行事——入学式・卒業式・キリスト教行事・周年行事

礼拝は、本校で最も大切にしている時間である。入学式・卒業式・始業式・終業式等の式典は礼拝形式で行われる。高校生は週1回、朝の1時間目がチャペルでの学年礼拝となる。5月29日の創立記念日には、特別礼拝をもつ。創立者が健在な時期には、熱弁を振るうのが名物であった。式典では、ハンドベル部の前奏や賛美演奏がある。2学期の終業礼拝は、クリスマス礼拝となる。高校音楽選択者が歌うハレルヤコーラスは迫力がある。キャロリング礼拝は、終業式当日の夕方にもたれる公開イベントで保護者も合唱で参加している。

1983年4月、卒業生の藤崎るつ記さんがボランティアで訪れたフィリピンで、溺れた友を助けようとして命を落とした。聖書の「一粒の麦」のたとえにつながる行いと受け止められ、現地では大きく報道された。



■創立間もない時期の卒業式（1951年）
卒業証書が渡されている。



■入学式の開式を待つ新入生（1984年）
会場は更賜体育館（旧体育館）であろう。



■旧チャペルでの学年礼拝次第（1980年代）
本日の説教者は清水牧師となっている。



■ハンドベル部の演奏（2007年）
式典の前奏や賛美演奏はハンドベル部が担う。新 大志館アリーナにて。



■クリスマス礼拝（1994年）
2学期の終業礼拝はクリスマス礼拝となる。



■高校聖歌隊と創立者（1960年頃）
中央は清水安三・郁子夫妻。



■キャロリング礼拝（2010年頃）
終業礼拝の日の夕方、保護者の方、地域の方も招いてクリスマス礼拝をまもる。



■藤崎るつ記さんの葬儀（1983年）
フィリピンの人々の心を動かし、教派を超えていとなまれた。

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

学校行事——桜祭り・文化祭・体育祭・合唱コンクール

体育祭、文化祭は学校行事の花形である。かつては春に「桜祭り」が開催された。運動会・体育祭は、時代により形を変えながら受け継がれている。創立間もない時期には仮装行列が、近年は応援団の華やかなパフォーマンスが名物となっている。リレー、棒倒し、騎馬戦など若い力がぶつかり合う競技は見応えがある。秋の文化祭では各クラスの取り組み、文化部の展示、作品発表、体育館を舞台にした音楽発表、ダンスや書道のパフォーマンス発表など多くの観客を集める。屋台の模擬店は売り上げを競い、祭りの雰囲気盛り上げている。11月には1年生が合唱コンクールに取り組み、クラスが一つにまとまる機会である。新年には百人一首大会、2月にはマラソン大会と、一年を通じて多彩な行事を行い生徒の持ち味を発揮させる場としている。



■ 高校体育祭 (1985年)

応援団が色別に団員を組織して大きな動きをつくっている。



■ 体育祭競技 棒倒し (2007年)

攻める側も、守る側も精一杯の力を発揮している。



■ 体育祭応援団の演技 (2004年5月)

色別対抗で、工夫を凝らしたパフォーマンスを競い合う。

■ 木造校舎前で
フォークダンス
(1960年代)

桜祭りは文化・体育両面を合わせた行事であった。



■ 文化祭 入場門の装飾 (1981-82年)

入場者を迎えるゲートには実行委員の工夫が光る。



■ 文化祭 美術作品展示 (1980年代)

美術部生徒の大作を鑑賞する生徒。



■ 文化祭 繁盛する模擬店 (1987年9月)

各クラスが工夫した出店で売り上げを競う。



■ 高校1年合唱コンクール (1989年)

男声・女声がつくるハーモニーで、クラスが一つにまとまる。

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

学校行事——遠足・臨海学校・修学旅行

校外授業は、学校生活の節目となる。校外遠足や臨海学校には、創立間もない頃から取り組んでいた。1980年頃まで修学旅行の行き先は、主に関西・広島・九州方面が選ばれていた。寝台列車を利用して遠方に移動し、1週間の日程で各地を周遊する企画もあった。見学とともに宿舎での食事が大きな楽しみである。やがて飛行機を利用するようになり、北海道方面をへて1980年代半ばに沖縄修学旅行に取り組んだ。以後、30年以上沖縄修学旅行を続けている。沖縄修学旅行は前半が戦争の遺跡を巡る平和学習、後半は自然と文化の体験学習から構成されている。与論島（鹿児島県）への船旅は、亜熱帯の自然環境のもとでの海水浴や舞台でのクラスレク発表が、楽しい思い出の一コマとなっている。近年は沖縄本島内での体験学習に移行したが、訪問先の人々とのふれあいの中で大きな学びの機会を得ている。



■九州方面修学旅行（1983年）
大浦天主堂の前で記念撮影。自主行動中の一コマ。



■東北・北海道方面修学旅行（1982年）
東北から青函連絡船に乗り道南を回る周遊旅行であった。

ご 旅 程 表

期 日 (1班) 昭和53年3月11日(土)～3月15日(水) 4泊5日
(2班) 昭和53年3月12日(日)～3月16日(木) 4泊5日
羽田空港第3出発ロビー 午前10時00分
集合場所

日程	期日(曜)		行程	宿泊地	旅館名
	A班	B班			
①	3/11 (出)	3/12 (回)	羽田 11:15 JAL 359機 12:55 福岡空港 鳥栖 佐賀 有田 17:30 佐世保	佐世保	万松楼
②	3/12 (回)	3/13 (回)	佐世保 8:00 西海橋 9:50 長崎(市内自主行動) 16:00 諫早 多比良 18:20 島原	島原	海望荘
③	3/13 (回)	3/14 (回)	7:50 島原外港 8:10 阿蘇山 9:40 松島 10:15 天草五橋 三角 12:00 熊本(城、水前寺公園) 15:00 内の牧	内の牧	プロテラル とら舞ザル
④	3/14 (回)	3/15 (回)	内の牧 8:00 阿蘇山 10:00 熊本 12:00 犀貫道 南関インター 14:00 柳川(川下り、白秋生家など) 16:30 八女インター 久留米インター 18:20 原鶴	原鶴温泉	さしやう 泰泉閣
⑤	3/15 (回)	3/16 (回)	原鶴 8:00 甘木 秋月(自主散策) 11:00 二日市 福岡 13:00 13:20 福岡空港 14:00 JAL 364機 15:30 羽田(解散 16:00 空港)		

(記入例) 国鉄 ●●●● 私鉄 → 航空 ——— バス ~~~~~ 汽船 - - - - ロープウェイ・ケーブルカー - - - - 徒歩

■修学旅行の行程表（1978年）
行程表からは写真では伝わらない旅行の全体像を知ることができる。
(当時のアルバムを元に作成)



■沖縄修学旅行 戦争体験者の講話（1992年7月）
木陰で体験者の講話を聞く生徒の表情は真剣そのものである。



■沖縄修学旅行 ガマ(壕)内で(1985年)
沖縄戦の状況を学ぶために、自然壕に入り暗闇を体験した。



■首里城での記念撮影（1994年）
最終日には首里城を訪れ、沖縄文化の歴史を学ぶ。



■与論島でのクラス写真（1993年）
夕暮れの中、クラス対抗でのレクリエーション大会。



■与論島での海水浴（1988年7月）
豊かな自然環境のもとで思い切って楽しむ体験は一生の思い出となる。

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

クラブ活動——野球部夏の甲子園大会初出場初優勝の活躍

1976年、第58回全国高等学校野球選手権大会に西東京代表として、夏の甲子園大会に初出場し、日本大学山形高（山形県）、市立神港高（兵庫県）、銚子商業高（千葉県）、星稜高（石川県）、PL学園高（大阪府）らの強豪校をすべて逆転勝利で連破し深紅の大優勝旗を持ち帰った。この大会、他校には後にプロ野球で活躍するスター選手がひしめく中、「普通の高校生」と言われた桜美林のプレースタイルは「泥臭い野球」と称され、劣勢でも決して諦めることのない粘り強さを発揮した。一方、スタンドの応援団は、詰襟の学生服が定番の時代でありながら、涼しげなブルーのシャツに白のニットタイ、白のパンツに白のスニーカーという、自由で都会的な応援リーダー達が吹奏楽部やバトン部と共にスタンドを盛り上げ、在校生や卒業生、教職員などの学園関係者はもちろん、町田市民や都民に至る方々からの絶大な声援をグラウンドに集約させ、選手と大応援団が一体となった結果、チームワークと全力疾走を信条に泥だらけになりながら初優勝を成し遂げた。東京勢の優勝は1916年以来60年振りであった。



■ 優勝の瞬間、喜び合う選手たち（1976年）

延長11回、菊池（太）のサヨナラ打で優勝した瞬間、歓喜に沸く選手たち。



■ 応援席の創業者 清水安三（1976年）
選手だけに暑い思いはさせないと背広にネクタイで応援する創業者の清水。



■ 横一列に並び校歌を歌う（1976年）
勝利し校歌を斉唱する選手たち。「イエスイエスイエス」の歌詞が広く知られるようになった。



■ 中央の行進写真（1976年）

深紅の大優勝旗を手にした片桐主将を先頭に球場内を行進する選手たち。（朝日新聞社提供）



■ 応援団の風景（1976年）

スタンドを埋め尽くす応援リーダーと大応援団。学園の校旗がはためく。



■ 町田市役所に掲げられた横断幕（1976年）

大会後、凱旋パレードでの一コマ。「おめでとう」の横断幕のもと、町田市役所前で祝賀会が行われた。



■ 学園での凱旋祝賀会（1976年）

凱旋パレードは、東京都庁（当時東京駅前にあった）を出発、終着地となった学園メイングラウンドにおいて凱旋祝賀会が行われた。



■ 優勝旗を囲む創業者 清水安三たち（1976年）

優勝旗を囲んで。左から浜田監督、創業者 清水、橋本高校長、佐藤部長。

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

クラブ活動——剣道部・男子バレー部・美術部・吹奏楽部・軽音楽部

野球部の活躍に触発されるようにクラブ活動の活躍が続いた。1977年には美術部生徒が全日本油絵コンクールで最優秀賞を獲得し、79年には同コンクールで最優秀学校賞を受賞し以後も活躍した。1984年には剣道部女子団体が高校総体（インターハイ）で優勝した。男子バレー部は1989年に全国大会「春の高校バレー」に東京代表で出場した。男子バレー部の「春高バレー」出場は4回を数える。野球部は春の選抜大会6回、夏の選手権大会4回の甲子園大会出場経験がある。1998年夏の甲子園大会に出場し3回戦に進出した。吹奏楽部はコンクール、各種イベントへの出場、韓国・中国での海外演奏と多彩に活躍している。定期演奏会は盲導犬育成、骨髄バンク支援のチャリティーコンサートと位置づけ社会貢献の意味合いを持たせている。近年では軽音楽部の活動が盛んである。2019年夏の全国高等学校総合文化祭（高知プレ大会）で最優秀賞を受賞した。



■ 第31回インターハイ秋田大会で全国優勝（1984年8月）
優勝決定の瞬間。9回目の全国大会出場で荣誉に輝いた。
（『剣道時代』提供）



■ 第31回インターハイ秋田大会表彰式（1984年8月）
「全国優勝は1回でいい。来年からも決勝を目指します」とは伊藤監督の弁。
（『剣道時代』提供）



■ 高校美術部 学展で最優秀賞（1977年8月）
高橋ふき子さんの作品が、第27回全日本学生油絵コンクール（学展）で最優秀賞に。



■ 美術部の活動風景（1980年代）
美術部は1979年に最優秀学校賞を得るなど、学展での受賞を重ねた。



■ 第20回春高バレーボール大会出場（1989年）
東京代表として全国大会「春の高校バレー」に出場し、3回戦に進出した。



■ 第20回春高バレーボール大会出場（1989年）
男子バレー部は、休部期間を経て見事に成長した。



■ 第80回全国高等学校野球選手権大会（1998年）
野球部は西東京代表として甲子園に出場し、3回戦まで進んだ。



■ 軽音楽部 全国総文祭（軽音楽部門）で最優秀賞受賞（2019年）
Toy cleanseは高校女子3名のバンドである。

IV-3

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林高等学校

国際交流

国際人の育成を理念に掲げる本校は、1980年代にはアメリカや中国の学校との間で生徒の相互訪問を始めた。春休み・夏休みを利用した3週間程度のホームステイまたは寮生活しながら現地の学校の授業に参加するスタイルである。同じ時期にオハイオのオベリン高校への1年間の留学生派遣も始まった。親元を離れての外国での生活は、異文化を理解するとともに自立心を養う機会であった。一方、外国からの本校訪問者にも、日本文化の体験や授業参加など本校生徒との交流の機会をもうけてきた。韓国・中国との姉妹校提携が進むと、クラブ活動の海外交流が進んだ。吹奏楽部は、韓国済州島、中国北京市での演奏会を成功させた。提携先は変化しながら拡大した。オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、カナダ、シンガポール、フィリピンなどに拡大した。留学期間も1年間、3か月間など選択ができる。



■訪日した陳経論中学合唱団と合同演奏（2015年）
町田市民ホールにて、吹奏楽部と陳経論中学合唱団が合同演奏。



■外国からの訪問者に華道を指導（1990年頃）
外国からの訪問者への対応は、華道部の出番である。



■Oberlin College 語学研修参加者（1991年8月）
夏休みにOberlin Collegeの寮に宿泊しながらの語学研修参加者。



■韓国済州島 細花高校を訪問（2000年11月）
高校吹奏楽部が訪問演奏を行った。以後も相互交流が続いている。



■創立90周年記念 陳経論中学校訪問（2011年）
高校吹奏楽部が訪問し演奏した。演奏会後の記念撮影。



■外国人生徒に日本文化を指導（2017年）
交流の内容は、華道、書道、和服の着用と多彩になってきた。



■オーストラリアの姉妹校にて（2017年7月）
Emanuel College (VIC) とは姉妹校提携を結び、相互に生徒を訪問させている。



■順天梅山女子高校訪問（2017年12月）
美術部が訪問し、共同して作品を作成した。